

校長室から平成31年3月12日

長町PRIDE

予餞会 卒業式に見る生徒たちの素晴らしさ

平成30年度も残すところあとわずかとなりました。3月9日(土)、「緑学年」の3年生が第72期卒業生として、旅立ちました。彼らの今後の未来がすばらしきものであるようお願いしたいと思います。

このすばらしき卒業シーズンに華を添えたのは、在校生達の頑張りでした。おそらく、仙台市のすべての学校で予餞会、あるいは予餞式があり、そして卒業式を迎えます。しかし、これほどまでに人の心を動かす予餞会、卒業式はないのではないかと思います。限られた時間の練習の中ではありませんでしたが、豊かな企画力で構成され、披露された各学年のパフォーマンスは、言葉や文章ではなかなか表現できない驚きや感動がありました。

1年生のダンスと合唱に、まずは驚かされました。1年間の成長は目覚ましく、当日の演技は、これからの可能性を大いに感じるものでした。ステージ上で見せてくれたダンスも合唱も、いつの間にか本当にすばらしいものになり、長町中の歴史や伝統を継承していくことができる学年となって成長しているのだと、とてもうれしく感じました。皆さん自身はどう感じたでしょうか。昨今の頃、皆さんは小学生で、卒業間近の日々を過ごしていました。その時の自分、その時の気持ち、その時の集団の雰囲気、随分変化したのではないのでしょうか。

そして、2年生のパフォーマンスは、圧巻でした。発表した演技全体から、3年生を思う気持ちが伝わってきました。人を賞賛したり、励ましたりという事は、皆さんが示してくれたような本気のものであることによって、初めて伝わるものだと実感します。2年生の発表が進むにつれて、自然と涙がこぼれてきました。それは、おそらく私だけではなく、多くの教職員が同じ気持ちだったと思います。様々な経験をして、最上級生になる自覚も生まれてきているのではないのでしょうか。2年生には、これまでの皆さんの素直さと、謙虚さを忘れず、今後の1年間、長町中学校を支える存在であり続けてほしいと思っています。「本番に強い青学年」の神髄を見せてください。大いに期待しています。

在校生全体で携わった卒業式の準備、そして卒業式当日の合唱団のすばらしき歌声。3年生の心に響いたと思います。長町中では、当たり前のようになっていますが、卒業式の入退場の花道を生徒の合唱で彩るとい学校はほとんどないでしょう。しかも、これほど多くの卒業生が入退場する間、美しい歌声を響かせることができる気力と力量。とても価値あるものです。

これらは、すべて、卒業した3年生も含めて、本校で培われてきたすばらしき伝統と文化です。伝統とは、ただ、長く継続されたものではなく、そこには、「命」が吹き込まれていなければ、続きません。ずっと長い期間、正しく受け継がれ、そしてそこに新しい命が吹き込まれ、更新されていく。そして、それらが、学校全体としてだけではなく、一人一人の成長に繋がっていく事が伝統だと思うのです。皆さんはまさしく本校の伝統の「継承者」でもあります。

この卒業シーズンで皆さんが示してくれた、数々のすばらしき行動は、また翌年、そして翌年と正しく受け継がれていくはずで。それらは、皆さんだけではなく、本校で勤める教職員も同じであり、長町中学校全体の誇りでもあります。

また、今日から、皆さんと教職員全体で、一歩ずつ、地に足をつけて、進みましょう。